



発行所

兵庫県精神薄弱者愛護協会
兵庫県育成会施設保護者協議会
〒654

神戸市須磨区友が丘1-15-1

発行責任者 金附 洋一郎

印刷所 交友印刷株式会社

〒652

神戸市兵庫区水木通9丁目1-34

電話 (078)576-6161

近畿精神薄弱者施設長会議を終えて

兵庫県精神薄弱者愛護協会

会長 金附 洋一郎

昭和六十三年十一月十六日、十七日、近畿精神薄弱者愛護協会施設長会議が舞子ビラを会場として、近畿各地区からの施設長百五十三人と来賓十四人を迎えて開催された。

当番県、近畿愛護会長県としての主催者挨拶として、まず、開催地兵庫県愛護に於ける本年春の施設不祥事についてお詫びし、現在では新組織を編成し信頼の回復に努力中であることを報告した。また本大会が精薄者の人権について、生活の質、QOLを問いつつ自立の方策をさぐるよう、参加者が活発な討議を行って、有意義な大会となるよう期待すると挨拶をした。

ひきつづき、日本愛護江草会長の挨拶と、来賓を代表して兵庫県民生部次長・井上 正敏氏、神戸市民生局心身障害福祉室長・清水 賢一郎氏、県社協常務理事・塚口 伍喜夫氏からそれぞれ祝詞を頂いた。

中央情勢報告において、中谷内常務理事は次年度福祉予算の動向、グループホーム制度の新設を詳しく報告された。

分科会は児童、者通所、者入所の三分科会を設け、各分科会とも二題

を共通テーマ、残り一題をフリーテーマとして発題討議した。

一、利用者処遇の向上について。施設の最大目的であり、今回は施設の種別とか年齢層に関わりなく、重度者と中軽度者の「画一的な処遇」がとり挙げられ、その反省として少グループ班編成の処遇、施設と地域をつなぐ自立促進のための中間センター（いわゆるグループホーム）等の実践が報告され、フロアーの意見も交えて、ノーマライゼーションへの方向が模索されました。

二、職員研修について。職員にとって毎日の現場が格好の実習であり、主体的に日常の自主研修を積み重ねるよう努力する。二人の発題者が、他法人又は異業種との交流研修が職員の視野を広められたと報告し、注目を浴びた。

三、フリーテーマでは、施設機能の再確認と通所更生施設への通勤助成を訴える提案があった。そのほか緊急提案として消費税への対応、B型肝炎に関する情報交換もあった。

第二日は、今回の兵庫大会の新しい企画で、大阪府立大学教授・小室豊允先生を招き特別講演「精神薄弱者施設における施設運営上の諸問題」を開催、前日の中央情勢を確認し、優良施設としての民改費一%上乗せ基準等について十分な研修を深めることができた。（本紙2面に要旨）

大会は僅か二日間であったが、県愛護協会が企画、準備の段階から積極的に参加し、会場に於ては受付、記録、司会のホスト役を引受けて盛会に大会を閉じることが出来、会員各位に厚くお礼申し上げます。

なお補足として、平成元年度は近プロ職員研修会を、平成五年度は全国職員研修大会が兵庫県の当番予定です。一層のご協力を願います。

当日のご来賓氏名（敬称略）

兵庫県民生部次長・井上 正敏、兵庫県民生部障害福祉課長・高橋 和夫、兵庫県民生部障害福祉課長補佐・八木 敬雄、神戸市民生局心身障害福祉室長・清水 賢二郎、神戸市民生局心身障害福祉室育成課長・奥田 拓治、神戸市民生局心身障害福祉室育成係長・浜崎 孝夫、兵庫県社会福祉協議会常務理事・塚口 伍喜夫、施設部長・室井 常時、松沢 賢治、神戸市社会福祉協議会事務局長・松岡 泰彦、兵庫県精神薄弱者育成会理事長・田中 義徳、事務局長・藤井 勲、兵庫県精神薄弱者入院共済理事長・水井手 孝司、神戸新聞厚生事業団事務局長・田村 迪夫。

近畿施設長会特別講演より

「精神薄弱者施設における

施設運営上の諸問題」

アメリカやイギリスなど、今、世界的な流れとして税制改革が行われているが、いずれのケースでも総人口のかなりを占めるいわゆる新中産階級に対しては、おもいきった減税を行っている。

ところが各国とも財政的な赤字に悩んでいるため、この税制改革（大幅減税）の一方に、必ず福祉改革というものがセットされている。福祉の効率化、さらには福祉財政の総枠をしぼることで、減税に対応しようというものである。

福祉については、アメリカ、ヨーロッパでは本格的な在宅福祉に移行し、施設福祉は後退しつつある。例えばスウェーデンの場合、ホームヘルパーや訪問看護婦といった仕組みを作り、制度・体制で徹底した対応を行っている。しかし、アメリカの場合、在宅福祉を強く打ち出し過ぎたため、膨大なホームレスが発生し、大きな社会問題となっている。

日本の場合、昭和五十七年の臨調答申の中で、国民負担率を46→47%に抑えるという方針を打ち出しており、「中福祉・中負担」の福祉をやっ

ていくというガイドラインがセットされ、在宅福祉と施設福祉の併用という方向に進んでいる。

昭和六十二年十月一日現在の全国の社会福祉施設数は四万八千七百三十一、定員二百五十六万八千四百三十四人、施設従事者五十六万九千三百六十三人で、一兆七千億円のマーケットとなっているが、精神薄弱者・児関係について施設は減少傾向で、精神薄弱者の施設については言え、基本的には児童関係の高齢化等により絶対量がまだ不足しているというのが現在の社会福祉施設の概要である。

これらの社会福祉施設をどう改革していくかということ、中央社会福祉審議会、身体障害者福祉審議会、中央児童福祉審議会の三審議会委員の代表により、昭和六十年に合同企画分科会が設けられ、その中で審議が重ねられており、昭和六十二年十二月の中間答申を経て、本年度中にも答申が出る見込みである。

答申の方向性については、今急激な変化を求めるといふようなものにはならないと思う。むしろ国のほう

でその前に具体策を実施していくものと思われる。

その一つが補助率の削減である。昭和六十年までは社会福祉施設に対する国の補助率は、生活保護に対する補助率と同じ足並みで推移してきた。しかし現在、生活保護が七割に据え置かれたままなのに対し、社会福祉施設の補助率は五割となっている。この生活保護と社会福祉サービスの国の責任が明確に区別されたのが昭和六十二年度からであった。

昭和六十二年四月からの機関委任事務から団体事務への転換で、社会福祉施設の入所についての国の責任がはずれたことにより、これから社会福祉施設をどう作っていくのかというのは地方自治体の裁量にかかってきた訳だ。施設補助の五割から七割への復元を期待する声強いが、こうした事情からそれはかなり難しいと言わざるを得ない。

答申の方向性のいま一つは、措置制度についてであるが、おそらく措置制度は残ると思う。ただし、措置制度になじむものというのはかなり限定され、一方で費用徴収制度がかなり強化されてくるものと思う。また、これと併行して契約入所の仕組みを広げていくということが、おそらく打ち出されてくるのではないかと思う。

そうすると、入所者の側で施設の

選択という問題が当然でてくる訳で、費用の徴収が増えるにつれて、より良い施設が目されることになる。従って施設も選ばれるに耐え得る施設への変革を図っていかないと、精神薄弱者施設が不足しているからといったのんびりかまえてはおれなくなると思う。

今後の方向として、これから施設を増やすといっても、無限に増やす訳にはいかない訳で、在宅主義というものが相当厳しくでくると思う。しかしそうすると、施設利用者と在宅の人との間の不公平が生じてくるので、必要に応じて施設の使い分け、施設と在宅の役割をうまく使い分けるといふ考え方が必要だと思ふ。

在宅だから、「タダ」という発想ではなく、行政、施設、地域などからの支え、税制上の優遇措置、住宅改善のための手当など、在宅のバックアップシステムを確立していかなければならない。

施設の原点はやはり心だ。入所者その親、職員との心のかけ橋がここになければならないと思う。更により良い処遇をめざし、皆様の健闘を期待したい。

※以上近畿施設長会における小室先生講演より(文責 阪上)

昭和63年度愛護の集い

施設や保護者の代表ら230人が参加

昭和六十三年年度の「愛護の集い」が、昨年九月二十七日、兵庫県中央労働センターで開かれました。全国愛護月間の重要な地方行事として盛大に開かれたもので、県下の各施設長、職員、保護者代表等約二百三十人が参加しました。

当日は、開会あいさつに立った県愛護協会の金附会長が、弱い立場の精神薄弱者を守るべき施設で発生し



た不祥事にふれ、今後は、施設関係者はエリを正して信頼回復に全力をつくすことを力強く表明しました。

引き続き行われた記念講演では、兵庫県精神薄弱者更生相談所の黒田健次所長を講師に、「精神薄弱者の処遇をめぐる」と題して講演があり、目立たないが一步步づつ着実に伸びていることを信頼する指導者であり、保護者であってほしいと結ばれました。

午後の実践報告では、保護者や施設職員など五人の方々からの報告があり、施設と保護者会とが車の両輪

「愛護の集い」から

県への要望

(要旨)

兵庫県精神薄弱者愛護協会と兵庫県精神薄弱者育成会施設保護者協議会は、精神薄弱者の福祉をゆるがす不祥事発生の中で、組織を挙げて内外の信頼回復に向けて懸命の努力を重ねています。この度昭和六十三年「愛護の集い」を開くにあたり、精神薄弱者の福祉の充実にについて一

となつて共に助け合つて指導にあたるよう、出席者はあらためて認識を深めました。

実践報告者は次の方々でした。

◆赤穂精華園祭を運営して〓赤穂精華園保護者会副会長・榎賀恒一氏

永年勤続職

員に感謝状

「愛護の集い」の席上、施設勤続十五年以上を迎えた次の職員二十四人に対し、愛護協会長から感謝状が贈られました。(敬称略)

田野千秋、寺内裕子、生田光昭、小西由紀子、秋末五十鈴、三美学園、田村千枝子、澤野ひろ子、細

層のお力添えとご指導を賜りますよう、下記のとおり県当局に要望いたします。

一、施設における不祥事発生の防止対策

施設近代化に向けて、安定した精神薄弱者の福祉推進への指導

二、職員対策

職員の定員増加、職員処遇向上による人材確保と専門職としての地位の向上

◆高齢入所者が地区老人会に参加
〓上野丘更生寮保護者会長・玉野賢行氏
◆施設療育と学校教育
〓春日学園指導員・近藤忍氏
◆施設防災対策
〓陽気会理事長・松端利昌氏
◆入院共済互助会の発足
〓互助会理事長・水井手孝司氏

見よしえ、春日育成苑・河合文江、大石賀子、六甲園、栗林千世、瀧壽美、加古川つづじ園、松永栄一、伊丹つづじ園、高永ちづ子、姫路学園、三浦敏子、もとやま園、青木郁代、のぼら学園、長江純子、ひまわり学園、武田紋代子、ななくさ育成園、石川きみ子、井上光紀、ゼノの村、山下知子、本多美佐子、片上文字、赤穂精華園、藤田美由紀、さつき学園

三、新規事業対策

通所施設、入所施設、生活寮、福祉ホーム、小規模通所施設等の充実

四、医療対策

入院共済制度の充実と育成への助成措置及び法人化への指導

五、施設の安全と防災対策

防火対策の更なる推進、老朽施設改築・夜間の人員確保

六、早期療育対策

早期療育の普及の一層の推進

七、雇用対策

雇用の拡大の一層の推進

ひょうご健康福祉祭

兵庫県精神薄弱者福祉大会

たんば田園交響ホールで盛大に開催

ひょうご健康福祉祭・第三十二回

兵庫県精神薄弱者福祉大会が昨年十月十七日、多紀郡篠山町の「たんば田園交響ホール」で盛大に開催されました。

当日は、県下各地から育成会の会員をはじめ、行政関係者、施設関係者等九百四十五人が参加、開会に先立って、白いドレスが美しく似合う「シルバーエコーささやま」の皆さん四十七人による「手をつなぐ母の歌」が披露され、高齢化社会の生きがいのすばらしさに感動しながら、参加者一同新たな決意を込めて唱和

しました。

このあと、精神薄弱者育成会多紀郡支部長の藤原哲夫氏から開会あいさつと歓迎のことばがあり、おりから開催されている食と緑の博覧会や丹波篠山観光もつけ加えられました。

また、県育成会理事長の田中義徳氏は、親と子の高齢化に対応するため地域の理解を一層深め、人としての尊厳にあさわしい処遇の確立に向けて、共に前進したいとの決意が表明されました。

実践報告では、ボランティア、親

大会宣言

わたしたちは、本日、たんば田園交響ホールに集い、ひょうご健康福祉祭第32回兵庫県精神薄弱者福祉大会を開催いたしました。

わたしたちは、今日まで「完全参加と平等」をめざして、たゆまない努力を重ねてきましたが、本格的な

の立場から「共に生きる社会づくりのために」篠山町・向井祥隆さん、「自立願って」(春日町・小西福栄さん)、「幸せに向かつて」(三田市・白谷千栄子さん)の報告があり、それぞれの方の生き方に共感の拍手が送られました。

最後に記念講演では、社会福祉法人恩鳥会福祉会ボブラの家理事長の若林軍氏から「わたしの施設運営と将来への対応」と題して講演があり、園生を主人公として職員が奉仕する心情を柱に施設の運営を行い、将来は更に、地域の人たちと共に歩む施設にするよう努めたいと結ばれました。

なお、当日会場では、永年育成会活動に貢献のあつた以下の方々に対し県育成会理事長から感謝状等が贈

- 一、障害児・者の正しい理解推進のため、福祉教育の充実に努める。
- 一、小規模通所援護施設の充実整備をはかる。
- 一、職業指導員の育成と雇用の拡大をはかる。
- 一、時代の変化に対応する施設を整備する。

昭和63年10月27日

ひょうご健康福祉祭第32回
兵庫県精神薄弱者福祉大会

られました。(敬称略)

▼特別感謝 九鬼文平(故人・篠山町)

▼感謝 堀池喜誉治・ヤエ(篠山町)、向井祥隆(同)、東門隆夫(同)、橋和功(丹南町)、カサイ産業篠山工場(西紀町)

▼表彰 松田隆夫(朝来町)、中嶋忠義(和田山町)、栗本改造(新宮町)、石谷昇(御津町)、杉本常夫(西宮市)、井上尚子(同)、田中英(同)、茅原富子(姫路市)、藤原治(三田市)、藤原武雄(三木市)、寺岡宏子(大河内町)、稲田武利(龍野市)

【図書紹介】

◎「自立に向けて」

第37回育成会全国大会資料集
全日本精神薄弱者育成会発行。

知恵遅れの人たちをとりまく働く場や、住まい、暮らしの問題など最新情報を分かりやすく掲載。B5判二百八十ページ、定価八百円(送料込)、お求めは同会(東京都港区西新橋2-16-1、☎03-431-0668)へ。

◎「手をつなぐ親たち」

全日本精神薄弱者育成会発行。
月刊誌(月二百五十円)。問い合わせは兵庫県精神薄弱者育成会 ☎078-242-4644へ。

施設入所者等互助会

発足後10か月を經過して

兵庫県精神薄弱者
愛護協会事務局長

福田 和臣

施設入所者等互助会が昨年四月に
発足して十か月が経ちました。

施設利用者等が安心してより豊かな
医療を受ける事が出来るように、
また、この制度の運用を通して障害
問題を啓蒙していくという目的を
もって発足した本制度は順調に拡大
しています。

当初入会者を千四百四十人と見込
んでいましたが一月末で二千八百二
人と大幅に増加しており、この制度
がいかに必要であったかが推測され
ます。総施設数六十九施設（五十八
支部）という事は兵庫県内の七十%
の施設が加入しているということだ
す。現在も加入について検討してい
る施設や保護者からの問い合わせが
あり、事務局で対応しています。

この様に拡大している本制度です
が、発足後十か月を經過して、色々
な問題が出て来たり、かかげた目標
を積み残したりしています。

☆問題の多くが運用上の問題
運営要綱や細目が理解されておら
ず、個人的解釈をしている事から来
るトラブルがあります。入会手続き
にそれが多くあります。支部長に書

類を渡した時点で「入会」と思っ
ていたり、受理される前に減額した金
額で納金されたりしています。

入会金は、納金を含めた全ての手続
きが完了して「加入」となる事を支
部長は理解し、加入申込者に徹底
していただきたいと思っています。

今年度は初年度ということもあり、
柔軟な対応を事務局でしたよう
ですが、次年度は原則に基づいた運
用になると思われます。

一方、条文等にも、誤解や拡大解
釈を生みそうなものがあれば検討し
ていくべきです。

☆給付の状況から

次に、給付にかかわる本年一月現
在の状況は別表の通りです。

予想加入者数より増えた分だけ給
付金が増えるのは当然ですが、若干
の問題も含んでいます。

まず、「保護者の範囲」や「一日」
の解釈が不整合になったり、統一徹
底出来ない事が推察されます。
また、長期入院（九十日）を毎年く
り返す場合、掛金等で考慮する必要
が出て来るかもしれません。
しかし、給付状況からは、施設利

用者の介護体制が本当に不十分であ
る事がうかがわれます。

☆これからの展望

積み残した目的の中に家政婦協会
との連携があります。連合体として
の機能を全く果していない部分もあ
り、予想以上の難問です。今後は、
個別に協会との関係を深めていく方
法を取る方がよいと思われます。

次に会員の拡大と小規模作業所利
用者の問題があります。

これは県愛護協会との関係でも今
後出て来ることです。各支部内の施
設利用者への呼びかけは当然です
が、支部未設置への働きかけをして
いただきたいと思っています。

小規模作業所利用者への働きかけ
は、県愛護協会に現在未加入の小規
模作業所については組織的に働きかけ
る事が出来ないで、県育成会や地
域親の会との連携を深め、対応して
いく事になります。お金が関係する
だけに責任体制等詰めが必要です。
地域処遇がいわれる昨今、愛護協
会や既存の組織の力量が問われると
ころではないでしょうか。
以上、いずれの課題も大変な事は
かりですが、医療保障の充実をめざ
す運動の一つとして理解していただ
き、関係各位のご支援をお願いする
次第です。

施設入所者等互助会給付状況

(平成元年1月現在)

	件数	金額 円	月別件数											
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月				
更生施設	㊦	36	3,530,236	9	4	4	4	1	6	4	4			
	㊧	15	597,275	4	2	1	2		3	2	1			
	㊨	51	4,127,511											
授産施設	㊩	13	1,657,500	4	2	2		3		2				
	㊪	5	437,500	2	2	1								
	㊫	18	2,095,000											
児童施設	㊬	7	449,000		1		1	2		2	1			
	㊭	3	129,000					2		1				
	㊮	10	578,000											
合 計	㊯	56	5,636,736	13	7	6	5	6	6	8	5			
	㊰	23	1,163,775	6	4	2	2	2	3	3	1			
	㊱	79	6,800,511	19	11	8	7	8	9	11	6			

㊦：付添介護料

㊧：差額ベッド料

※利用者数は更生施設38人、授産施設13人、児童施設7

人 合計58人

第23回施設親善陸上競技大会

職員部会長 藤川 勝

第二十三回施設親善陸上競技大会が昨年十月二十一日、明石公園陸上競技場で開催されました。

当日はあいにくの曇空でしたが、県下の五十二施設から二千四百三人が参加。体力の増強、施設間の交流に会場はなごやかな中にも参加者の熱気に包まれていました。

今大会も実行委員や関係の方々のご努力により盛況のうちに終えるこ



元気いっぱいジャンプ！ みんな生き生きしていました

とができました。厚くお礼申し上げます。

企画運営についての今大会での反

(春日育成苑)

陸上競技大会種目別順位

◎ロードレース

- 【児童男子】一位・有本良一(春日学園) 二位・有末勇(赤穂精華園) 三位・有本勝三(春日学園)
- 【成年男子】一位・井上哲朗(神戸聖生園) 二位・平井一吉(神戸光生園) 三位・阪本政司(協和学園)
- 【四十歳以上男子】一位・亀広昭男(赤穂精華園) 二位・大西久志(協和学園) 三位・御所秀治(播磨園)
- 【児童女子】一位・木下恵美(あけぼの学園) 二位・中谷美由樹(同) 三位・深津文子(赤穂精華園)
- 【成人女子】一位・森脇美江(協和学園) 二位・守川敏江(宝塚さざんかの家) 三位・山下扶規子(播磨園)
- 【四十歳以上女子】一位・高田愛子(赤穂精華園) 二位・大西フクエ(六甲園) 三位・木下瑛規(上野丘更生寮)

省点は次のとおりです。

- (1)開会式 時間短縮のため、到着後ただちにフィールドに集合する。
- (2)ロードレース ①周回数正に計測する ②スタート位置を變更し、観覧席から声援を受けやすいよう配慮する ③児童の部、青年の部(男子二十五歳、女子三十歳)、

成年の部の設置を検討する。

- (3)走り幅とび 六位以上の入賞者について詳しく計測する。
- (4)閉会式 時間がかかりすぎたのでその短縮策を検討する。
- (5)全体 会場への交通手段は極力公共輸送期間(電車、バス)を利用する。

◎走り幅とび

- 【児童男子】一位・坂田俊成(上野丘学園) 二位・牛島英之(あけぼの学園) 三位・須原誠(春日学園)
- 【成人男子】一位・岩田年弘(自立訓練センター) 二位・秋山豊(ひのもと青年寮) 三位・福岡規(宝塚さざんかの家)
- 【児童女子】一位・海原江美子(春日学園) 二位・中村美子(いちれつ学園) 三位・村山すみれ(あけぼの学園)
- 【成人女子】一位・坂口博子(姫路学園) 二位・谷川奈緒美(木の根学園) 三位・田中昭子(赤穂精華園)

◎ソフトボール投げ

- 【児童男子】一位・小笠原正幸(春日学園) 二位・加賀田幸司(あけぼの学園) 三位・上田宏道(三田谷治療教育院)
- 【成人男子】一位・

◎一〇〇メートル×四人

- 【児童】一位・春日学園 二位・赤穂精華園 三位・あけぼの学園
- 【成人】一位・ひのもと青年寮 二位・赤穂精華園 三位・もみじ園、協和学園
- 【職員】一位・春日学園 二位・愛心園 三位・もみじ園、協和学園

◎二〇〇メートル×五人

- 【児童】一位・春日学園 二位・さわらび学園 三位・あけぼの学園
- 【成人】一位・ひのもと青年寮 二位・神戸聖生園 三位・赤穂精華園
- (以上敬称略)

福祉野球6年の歩み

たかが野球、されど…

婦木 治

全国の野球を愛好する施設職員を募っての大会が、福祉新聞社主催で開催されたのが六年前でした。

野球の出来る職員は限定され、施設数も少ないという制約の中で、会場の確保から公式審判員の依頼、宿泊の段取りなど、職員部会の事業としては無理があるとして毎年会長、部会長を悩ました問題(?)の集団であったかと思えます。

しかしこの六年の歩みの中で着実にその輪を広げ、当初の六施設十五人の参加が、十四施設三十四人の職員が集うまでになりました。

全国制覇したチームに決勝戦同点ドローで抽選負けしたこと、一点差での惜敗の決勝戦など今も脳裡をかすめます。深夜の三時に家を出て会場まで出かけて行ったこと、国民宿舎に泊って深夜までミーティングをしたこと、納会で将来ミニ授産をつくりたいと熱っぽく語る同輩、自分のめざす福祉論を酒量とともにボリュームを上げる後輩、ほんとうにいい連中が集まったという実感です。

「たかが野球じゃないか」。それ(7)の歩みと、がまん強く又温かく

支えて下さっている会長、部会長をはじめ、参加職員の各施設長の方々に恩返しすることを誓い、この紙面を借りてお礼申し上げます。

福祉 近畿予選記

谷垣 成和

第六回福祉野球大会の近畿予選会が昨年九月十三日、大阪九宝寺球場で行われ、兵庫県からは過去最高の十四施設、三十四人の選手が集い、三チーム編成という豪華な顔ぶれとなりました。

参加各選手は、この日にそなえて三回の練習、紅白戦そして近畿大会へと34人が一団となって燃えました。善戦むなしく全国大会への夢はかないませんでした。来年もより多くの参加を募り、悲願の全国大会出場を果たしたいと思えます。

県下各地から忙しい合い間をぬって参加していただいた皆さん、本当にありがとうございました。激しい練習の中で芽ばえた友情は本当だし、試合中同朋に送った応援の声は今も皆んなの耳にあります。

「一点差に 泣いた夏が なつかしき」

See You Again 1989

施設紹介

△精神薄弱者通所更生施設▽

社会福祉法人姫路若葉福祉会

若葉福祉作業所

所在地 姫路市玉手42612

☎〇七九二(九三) 四〇

四八

設立 昭和62年4月1日

定員 20人

施設長 嵯峨山 靖

職員数 8人(嘱託医1人)

若葉福祉作業所は小規模授産施設としてスタートしたのが始まりで、



社会福祉法人姫路若葉福祉会の保育所に次ぐ二番目の施設として開設されました。

授産課目として、ダンボール製品、加工、縫製、木工、陶芸、農園、一般企業への実習等。更生施設ではありますが、作業指導に重点を置き、就労に必要な生活態度や社会参加のための生活指導を、民間企業に近い形で行っています。昨年は二人が就職し、本年も三人が就職に内定しています。

年間行事では、一泊旅行やキャンプ、施設見学旅行、クリスマスパーティー等を行うほか、日々の作業の合い間のクラブ活動、映画や音楽の鑑賞、バザー活動など施設外出を多く組み込んでいます。

所員の平均年齢は二十三歳と若く、各自の作業分担、作業内容手順を自ら確認し日々の作業に取り組んでいます。職員の自発的企画とあいまって、地域住民からは明るく活発な作業所との評価を得ています。

昨年、市内九か所の小規模作業所とのネットワーク(姫路共同作業所連絡会)が出来、人的交流や製品の共同開発、販売も盛んになってきました。若葉福祉作業所では、自助を福祉の原点と考え、地域に根ざした施設でありたいと常に願っています。



《精神薄弱者通所授産施設》
社会福祉法人まほろば

三木光司園

所在地 三木市別所町小林字仕負

谷1181111

〇七九四八(三)三一

八一

設立 昭和62年4月1日

定員 30人

施設長 山崎 正則

職員数 9人

概要 社会福祉法人まほろばを母体に設立されたもので、神戸市の西端に接する三木市の東南に位置し、緑の学園にふさわしい木々に囲まれた自然豊かな環境の中で、平均年齢二十三歳という若い園生たちが、社会参加の日を信じ、夢みて、授産事業に励んでいます。

授産の内容 紙器加工、車いすの組立、ケーキ、クッキーの製造、さおり織、押し花などですが、園生が種目を選ぶ時、できるだけ本人の希望をいかし、能力に応じた配置に心がけています。

年間行事 一泊旅行、買物訓練、運動会、盆踊りと花火会、月見会、クリスマス会、もちつき会など働く喜びと共に、遊ぶ楽しみの要素も十分取り入れるようにしています。

日々の生活は、まほろば(よいところと言う意味)の基本的原理に基づき、いちれつ皆兄弟の理想のもと、仲良く、助け合い、いたわり合い、楽しい雰囲気の中で授産業務に従事しています。

現在の悩みは、多くの入所希望者がありながら定員の関係で受け入れができないことです。できるだけ早い時期に定員の増員を実現させて、自宅で待機している方々の要望に答えていきたいと考えています。

〈日誌抄〉

8月3日	愛護の集い実行委員会
8月18日	播淡地区代表者研修会
8月19日	希望の旅スタッフボランティア二名参加
8月23日	福祉野球近畿予選
9月13日	第26回全国職員研究大会(岩手)31名参加
9月15日	播淡施設長会、播磨園役員会
9月17日	神戸地区合同運動会
9月18日	保護者協議会総会
9月27日	昭和63年度愛護の集い愛護ニュース30号発行
10月7日	陸上競技大会委員会
10月8日	食と緑博覧会入場券八百枚配布
10月15日	役員会
10月21日	23回陸上競技大会
10月25日	播但代表者研修会
10月27日	32回福祉大会(篠山)
11月5日	近畿施設長委員会
11月8日	陸上競技大会反省会
11月16日	近畿施設長会
11月17日	(舞子ピラ)
11月22日	いなみの祭に九施設売店出品
11月29日	全国事務局長会議(東京)に福田園長出席
12月1日	更生部会(明石)
12月5日	中堅職員研修会

12月5日 日本愛護理事会、東京
12月13日 授産部会
12月15日 各県愛護協会会長会東京
12月21日 県下国会議員宛グルー

プホーム審議お願い
12月31日 「施設における事務処理の手引き」販売完了

1月21日 役員会

1月25日 近畿愛護役員会

1月30日 名刺交換会

2月9日 近畿職員研修会(和歌山県)

2月15日 阪丹但ブロック施設長会(西宮市)

2月20日 施設長・職員研修会(中央労働センター)

2月27日 県外施設研修(四国)

お知らせ

2月28日

住所移転

名神あけぼの園

〒663 西宮市津門大筒町2-13

あとがき

授産施設の滞留化、児童施設の入所児減少等々施設運営に悩みはつきない▼しかし忘れてはならないのが入所者にとってどうかという視点だ▼時流に流されず、今一度処遇のあり方を再考したいものだ。